

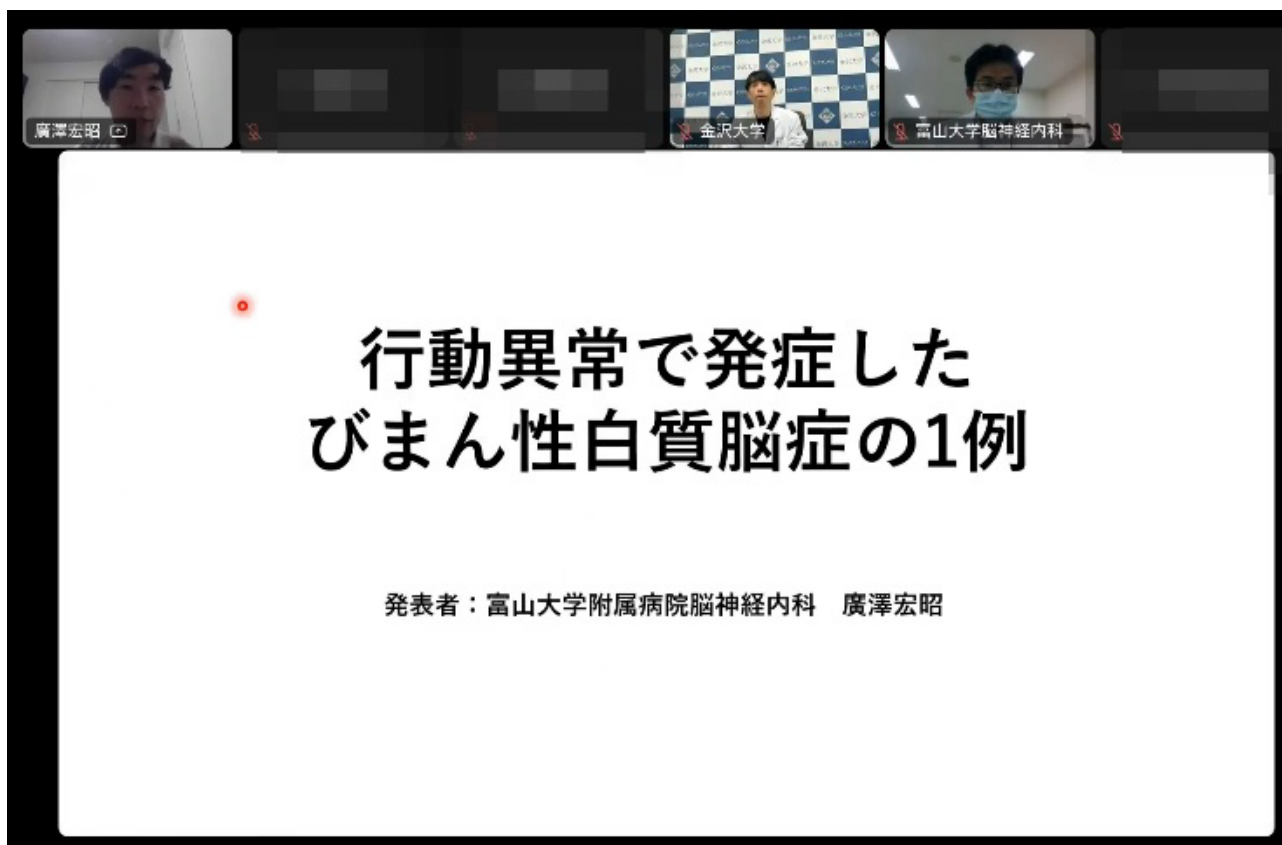
第108回デメンシアカンファレンスを開催

2025年1月29日

1月29日（水）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第108回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「行動異常で発症した、びまん性白質脳症の1例」のタイトルで、富山大学からの症例報告が進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド



廣澤宏昭

金沢大学

富山大学脳神経内科

行動異常で発症した びまん性白質脳症の1例

発表者：富山大学附属病院脳神経内科 廣澤宏昭

第 108 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『行動異常で発症したびまん性白質脳症の 1 例』

発表者：廣澤宏昭（富山大学附属病院 脳神経内科）

司 会：林智宏（富山大学附属病院 脳神経内科）

【要 旨】

X-1 年春頃から車に乗って 1 日中徘徊するといった異常行動が出現した。同時期に仕事は休職した。夏頃からは話のつじつまが合わなくなり、秋頃には物を置いた場所を忘れるようになった。X 年 3 月に近医内科を受診、HDS-R 11 点と認知機能低下と頭部 MRI 検査でびまん性の白質脳症を認め、当科受診となった。X 年 5 月精査入院となった。遺伝子検査で CSF-1R 遺伝子に c.2381T>C を認め、神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症の診断に至った。家族への遺伝子カウンセリングを並行しながら、外来フォローを継続している。

【質問・意見】

質問：

- ①教育歴や仕事について詳しく教えてください
- ②X-1 年春以前から仕事に支障が出るといったエピソードはありましたか？
- ③頭部 CT 検査の結果はどうでしたか？
- ④この変異はすでに日本で見ついているものでしょうか？
- ⑤本例では家族歴ははっきりしませんが、HDLS の浸透率はどの程度でしょうか？

回答：

- ① 高卒で現場仕事をしていました。
- ② 聴取した限り、X-1 年頃から仕事に支障が出て休職したようです。
- ③ 頭部 CT 検査では典型的な微小石灰化の所見はありませんでした。
- ④ ケースレポートですが、報告例はありました。
- ⑤ 浸透率についてはまた確認します。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第108回デメンシアカンファレンス

「行動異常で発症した、 びまん性白質脳症の1例」

2025年1月29日（水） 18:30～

発表者：富山大学脳神経内科 廣澤 宏昭
担当：富山大学
対象：認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者（医療系大学の学生含む）

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りしますので、記載のURLよりご参加ください。
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。
- ・上記以外で参加を希望される方は1月28日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局

TEL:076-265-2149

E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

〒920-8640 金沢市宝町13番1号

FAX：076-234-4208

URL:<http://ninpro.jp/>